

こおろぎ

発行日 2009年 6月 1日 **No.197**
発行元 株式会社
オリジン・コーポレーション
発行者 杉井保之
〒426-0044 静岡県藤枝市大東町777-1
TEL 054-636-4300 FAX 054-636-6187
E-mail origin@ck.tnc.ne.jp
URL <http://www.origin-co.com>

最近の相談から

最近、続けて同様の相談を受けましたが、皆さんはどのように考えられますか？

(相談内容)

私は姉二人と兄のいる家庭の三女として生まれました。姉二人は結婚して家を出ており、兄には借金癖があって、家を担保にお金を借りては困るという理由から三女の私が家を継ぐことになりました。

その後、父が他界したため、私と夫、息子、母の4人で暮らしていたのですが、兄が奥さんと別居して私の家に入って来ました。

兄は仕事にも就かず、母から金を無心してはパチンコに行くだらしない生活をしています。また、私の家の人は誰もタバコを吸わないのですが、兄の部屋はタバコのヤニでベタベタ、ゴミや脱いだ衣類が散乱して、とても不潔な状態です。

母には「年金暮らしでお金がないのだから、お金を渡さないように」と言うのですが、「私のお金なんだから関係ないでしょ」と言って兄にお金を渡してしまいます。このままいったら、いつか母のお金はなくなり、我が家の出費が増えることになると思うのです。

そうしたある日、兄と兄にお金を渡す母に腹を立てた18歳の息子が、二人に文句を言って、二人を家から追い出してしまいました。

今、兄と母は上の姉の家に住まわせてもらっているのですが、姉は「家をもらっておきながら、兄や母親を追い出すとは何事だ。子どもに謝罪させて、二人を迎えに来なさい」と言っています。

しかし、息子も「姉の家に行け」と言った訳ではありませんし、母の面倒はともかく、40歳を過ぎた兄の面倒を私たちが見る義務はないと思うので、姉の言うことは不当だと思うのです。

私の息子は、先生と合わなくて中学校のときから学校には行っていませんが、正義感の強い、頭のいい子です。

.....
こうした問題には「こうでなければならぬ」という答えはないと思いますが、もし私なら行くところのない兄に家を譲って、自分たちは新しい家を探すと思います。

私たちは、一旦相続してしまうと「自分の家」と思いがちですが、元々は親の家です。その家を相続するという事は、親の面倒を見るだけではなく、その家にかかわる問題も引き受けるということだと思っております。今回の問題の一つは、家はもらうが、家に伴う問題はもらいたくないというところにあると思っております。

確かに40歳を過ぎて仕事をしない叔父を見ていたら、不快な感情を持つことは自然なことかもしれませんが、その家は兄たちが権利を放棄してくれて相続できた家なのです。仕事もなく、行くところもない叔父に文句を言う人と、ビールの一本も買ってあげる人と、どちらのほうが幸せになりやすいかはわかることだと思っております。

私たちが生きていく限り、「不合理」と思えることはいくらでもあります。しかし、そうしたものととらわれて、人を恨んだり、苦しんでいる人の多くは、自分がお世話になった事実や、ご迷惑をおかけしたことを見落としている人が多い気がするので。

立派なことを書いていますが、私も若い頃には「何で私が相続した家を兄に譲らなくてはならないの？」と考えたと思います。しかし、この歳になると、家を譲ることより、人を恨んで暮らすことのほうがどれほど損なことかがよくわかるのです。

子どもさんの幸せのためにも、権利や正しさを主張する以外に、不合理と思えることを受け入れて「譲る」という選択肢もあるということをお教える良い機会になると私は思いました。

皆さんは、どのように考えられるでしょうか？

チャモロの生き方

サイパンやグアムに昔から住んでいる人たちをチャモロ人といいます。グアムはアメリカになったので少し様子が変わってきたようですが、サイパンのチャモロ人たちは、決して豊かそうでもないのに仕事をしてお金を稼ごうという意欲を感じません。

私はアジアの国にも行ったことがあります。だいたいどの国も「お金を稼いで、豊かになりたい」というエネルギーがあふれています。ところがチャモロの人たちからは、そうした意欲や向上心を全く感じないのです。

サイパンを歩くと、夕方から家の外で家族や友人たちと集まって、夜遅くまで団欒している姿をよく見かけます。サイパンは電気代が高いため、家の中が涼しくなるまで外で涼んでいるのです。深夜までそうしているのですから、次の日に仕事に行く気がなくなるのも無理はないのですが、働いてクーラーを買おうとは思わないのでしょうか？ 私は不思議に思って、少し親しくなったチャモロの人に「子どもさんもいるのに、どうして働かないのですか？」と尋ねてみました。すると、「お金が必要になったら働くよ」と答え、「それよりあなたたち日本人は、とても豊かな生活をしているのに、どうしてそんなに働くのですか？ 私だったら家族や友達とのんびり暮らすのに」と逆に尋ねられたのです。

その言葉を聞いて、私はある学校に講演に行ったときのことを思い出しました。

その学校は、自然に恵まれた、いじめも不登校もない素敵な学校でしたが、就職先が少ないため都会に越して行く家庭が多く、生徒の数が減っていたのでした。

自然に恵まれて、いじめもなく不登校もない環境を捨てて、お金を稼ぐためにアスファルトとネオンと排気ガスに囲まれ、いじめや不登校のある都会に越していく日本人。都会に住めば通勤に時間がかかり、家族と一緒に食事をとることはままならないでしょう。

確かに私たちはチャモロの人たちよりも近代的な暮らしをしていると思うのですが？？？

私は、チャモロの人たちの生活を目指そうと言っているのではありません。しかし、私たちの生き方が、「子どものため」と言いながら、本当に子どものためになるのか心配になるのです。

現在の貧困の問題は決して無視できるものではありません。しかし、貧困の問題はお金だけで解消されるものではなく、心理的な要因が強く影響していると私は思います。

例えば、皆さんの給料を40万円だとしましょう。その給料が10万円増えて50万円になったらどうでしょう？ ただしあなた以外の人の給料は皆、20万円アップの60万円です。

それとは逆に、経営不振のため、あなたの給料を30万円に下げると、他の人の給料は20万円にするので、これからはがんばってほしいと言われたのと、どちらのほうが幸せでしょう？

日本よりもアメリカのほうが所得格差は大きいのですが、アメリカには、日本で問題となっている「格差」という言葉は存在しません。アメリカの所得の上位25%の人と下位25%の人に、「あなたは幸せですか？」という調査をしたところ、上位の人の45%の人が「very happy」と答え、下位の33%が「very happy」と答えました。このことから、所得と幸せとが比例していないことがわかると思うのです。

私は「お金はいらない」と言っているのではありません。ただ、私たちが本当に求めているものは何かを見つめなおして、お金を得ていく過程でも幸せを実現していく必要があると言いたいのです。